

上富良野町子ども読書推進計画（案）

上富良野町教育委員会

目 次

上富良野町子ども読書推進計画について 1

子ども読書推進計画の目標における現状と課題及び具体的方策

1 家庭・地域・学校における子どもの読書活動の推進

(1) 家庭での読書活動の推進について 2

(2) 地域での読書活動の推進について（関係機関） 3

(3) 学校での読書活動の推進について 5

2 子どもの読書活動を推進するための環境整備の充実

(1) 読書活動の環境整備について 6

3 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

(1) 読書活動に関する理解と関心の普及について 7

上富良野町子ども読書推進計画について

子ども読書推進計画の基本的な考え方

子どもの「読書離れ」が危惧される中、国においては、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」公布・施行されました。

この法律の基本理念に「読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもが機会・場所を問わず、自主的に読書活動ができるよう、積極的にそのための環境整備が推進されなければならないものとする」ことが記されており、国は平成14年8月、この法律に基づき「子ども読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しました。また、地方公共団体は国の基本計画を踏まえ、「子どもの読書活動推進計画」を策定するよう努力することが定められています。これを受け、道では平成15年11月に「北海道子どもの読書活動推進計画」を策定しました。

上富良野町においても子ども読書活動の一層の推進のため、国・道の基本計画を踏まえ、乳幼児期から保護者ととともに読書に親しみ、楽しめる体験ができる機会をつくるなど、子どもたちにとって読書活動が日常習慣となるような支援が必要です。また、子どもが自主的な読書活動を習慣づけるには、家庭、地域、学校、図書館などが連携した取組が求められています。

本計画は、教育振興基本計画における第7次社会教育中期計画を踏まえ、子どもがその成長に応じて読書に親しめるよう、子どもの読書活動に必要な取り組みや環境整備など「子どもの読書活動」を推進するための基本的な考えや方策を策定します。

【計画の位置づけ】

第7次社会教育中期計画の読書活動の普及の具体的な行動計画

【対象】

18歳以下の全ての子ども

【期間】平成24年度～平成25年度の2ヵ年 第7次社会教育中期計画の終了年次に合わせる
次回の計画年度は、第8次社会教育中期計画（平成26年度～平成30年度）の5ヵ年に
合せて計画を策定する

【目標】

- 1 家庭・地域・学校における子どもの読書活動の推進
- 2 子どもの読書活動を推進するための環境整備の充実
- 3 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

子ども読書推進計画の目標における現状と課題及び具体的方策

1 家庭・地域・学校における子どもの読書活動の推進

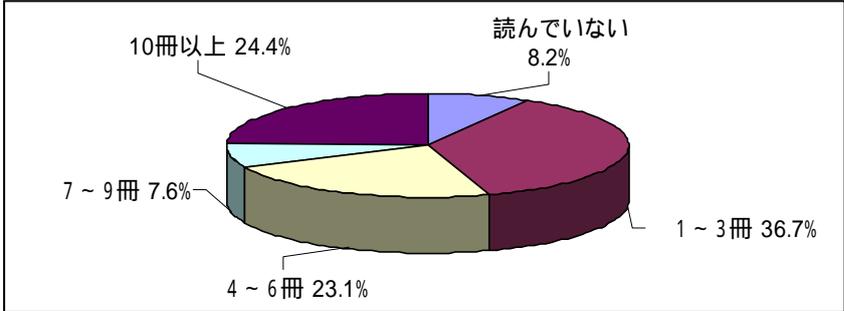
(1) 家庭での読書活動の推進について

【現 状】

- ・各家庭において幼稚園・保育園（所）等の保護者の読書調査結果から、約 92%の家庭で読み聞かせを行っている現状にある。
- ・7か月児健康相談時におけるブックスタート事業を通じて、読み聞かせの意義を伝えている
- ・幼稚園、保育園（所）、子育てセンターにおいて、読み聞かせを実施したり、保護者に対して読み聞かせの意義を伝えている。

アンケート結果から（幼稚園・保育園（所）等の保護者の読書調査）

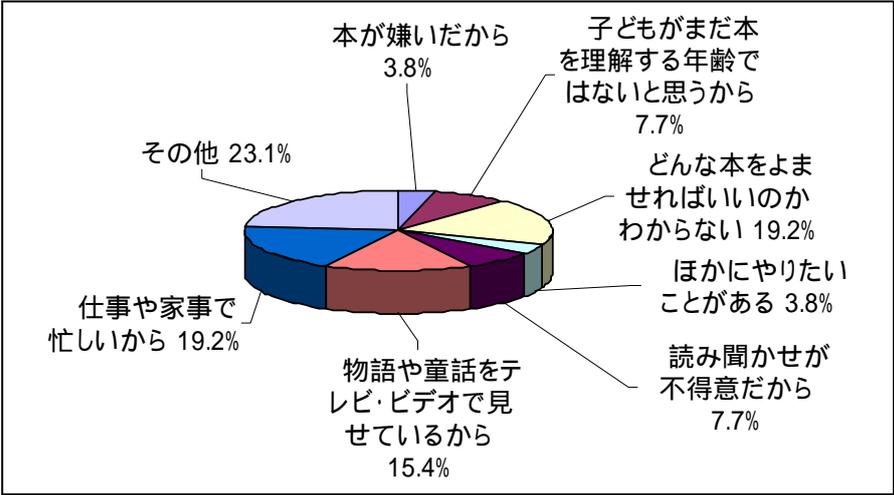
問1．あなたの家庭では、子どもに1か月平均何冊の本を読んであげていますか。（1つだけ選んでください）



【課 題】

- ・読んでいない理由として「どんな本を読ませればいいのかわからない」や「子どもがまだ本を理解する年齢ではないと思うから」など家庭に対して読み聞かせの支援や意義を伝える必要がある。

問2．「読んでいない」と回答した方にお聞きします。読んでいない理由を教えてください。（1つだけ選んでください）



【方 策】

家庭は、子どもたちが読書する習慣を身につける最初の間です。身近な大人が身体で触れ合い言葉で話しかけることが、子どもの心の成長と言葉の発達に大きな役割を果たします。また、親子で本を読んだり聞いたりすることで感動を共有し、信頼感を得ることにより、人間形成に大きな影響を与えます。

このため、子どもが初めて本に触れ合う場としての家庭での読書活動を充実させることが大切となります。

- ・妊婦に対しての読書の大切さを伝えます。
- ・保護者に対して家庭での読書の楽しさ・大切さを伝えます。
- ・保護者が進んで読書するなど、本を読む環境づくりや読書の日常化を図ります。

【具体的な取り組み】

- ・家庭での読み聞かせの実施（家庭）
- ・おすすめ絵本のブックリストの作成、紹介（図書館、ボランティア）
- ・妊婦、各種乳幼児健診、小学校就学前の幼児及びその保護者を対象にブックスタートなどの事業を通して読み聞かせの実施や意義を伝える。（図書館・保健福祉課・子育てセンター・幼稚園・保育園（所）・ボランティア）

(2) 地域での読書活動の推進について（関係機関）

【現 状】

- ・図書館では、ブックスタート、幼児向けの絵本のブックリストの作成や紹介、小学校等への移動図書事業、図書館まつり、読書感想文、感想画コンクールなどを実施している。
- ・読書ボランティア団体は2団体あり、小学校における朝読書やブックスタート事業等への支援を行っている。
- ・幼稚園、保育園（所）や子育てセンターでは、毎日読み聞かせを行っている。

アンケート結果から（幼稚園、保育園（所）、子育てセンターへの調査）

- ・園児が手の届く所に絵本を置いて、自由に選び、読める場を作っている
- ・誕生会等でエプロンシアター・大型絵本、大型紙芝居の読み聞かせを行っている。
- ・育児教室（3ヵ月児の親子対象）の中で、絵本の読み聞かせの大切さの話を30分程、読み聞かせ実践を含め、絵本紹介などを行っている。
- ・おはなし隊にお願いし、定期的に来ていただいている。
- ・月1回紙芝居の読み聞かせを取り入れている。
- ・読み聞かせ、その他誕生会で大型絵本や紙芝居を活用。
- ・今年度はおはなし隊、絵本キャラバンカーに来ていただきました。
- ・絵本コーナーを設けており自由に子どもたちが読んだり、見れるようにしています。

【課題】

- ・図書館において、読み聞かせ会を行っていたが平成21年度途中から行っていない。
図書館まつりでは、年々参加者が減少しており内容の見直しが必要である。
子どもの読書週間における具体的な取組みがない
- ・読み聞かせボランティア団体が2団体あるが、様々な活動を行うためにボランティアの人材育成が必要である。
- ・幼稚園、保育園（所）や子育てセンターと連携を図り、随時、絵本などの本の情報や読み聞かせなどの学習情報を提供する必要がある。

アンケート結果から（幼稚園・保育園（所）、子育てセンターへの調査）

- ・その日來所する子供の年齢に合わせた内容を決めるのに悩む事がある。（3才以下が主なので、特に0、1才児のもの）
- ・読み聞かせ中に立って歩く子、集中できない子、逆に集中（興味を持って）して、紙芝居や絵本の前に出てきて、座っている子が見えなくなる事がある時の対処法。

【方策】

幼児期において、幼稚園、保育園（所）や子育てセンターは、家庭ではじめて本に出会った子どもが、次のステップとして家庭とは異なった多様な読書活動を経験していく場であり、生涯の中で知的好奇心が高く、言葉の発達と想像力を培う大切な時間です。

特に読み聞かせは、子どもたちに豊かな感情を芽生えさせ、感受性や情緒性を高めます。また、読む側と聞く子どもたちのコミュニケーションを図りながら、楽しい読書活動を行うことが大切です。

このため、図書館と幼稚園、保育園（所）や子育てセンターなどが連携し、読書ボランティア団体の協力のもとで、地域における読書活動を推進する必要があります。

- ・図書館において子どもの読書に対するサービスの充実に努めます。
- ・幼稚園、保育園（所）、子育てセンターにおいて、幼児期からの読書習慣づけを進め、図書館や読書ボランティアなどの連携により子どもが絵本などに親しめる機会をつくれます。
- ・読書ボランティア団体等に対して、図書館が研修の機会や活動の場の提供などの支援を行います。

【具体的な取り組み】

- ・読み聞かせの実施（図書館・子育てセンター・幼稚園・保育園（所）・ボランティア）
- ・読み聞かせなどの研修会（図書館・子育てセンター・幼稚園・保育園（所）・ボランティア）
- ・読み聞かせ活動の内容の充実（図書館・子育てセンター・幼稚園・保育園（所）・ボランティア）
- ・団体貸出しの推進（図書館）
- ・おすすめ本のリスト作成、配布による読書推進
（図書館・子育てセンター・幼稚園・保育園（所）・ボランティア）

- ・図書館まつりの開催（図書館・ボランティア）
- ・家庭における子どもの読書の啓発
（図書館・子育てセンター・幼稚園・保育園（所）・ボランティア）

(3) 学校での読書活動の推進について

【現 状】

- ・全小中学校において、朝読書活動を行っている。
- ・平成21年度に学校図書室に蔵書している図書について電算化を図り、町内各学校の図書室とのネットワークを構築した。
- ・図書委員会活動や読み聞かせ活動を行っている。

アンケート結果から（町内小中学校の調査）

主な回答

- ・毎週水曜日を朝読書の日として学校全体で取り組んでいます。また、週の1日を学年ごとに朝読書の日として設定し、週2回の読書を行っています。また、廃棄する本を学級文庫として、各クラスに渡しています。
- ・毎週火曜日に朝自習の時間に、図書委員会児童による読み聞かせを行っている。
- ・「読書の木」の取組を通して読書活動への意欲化を図る
- ・職員向けに図書係から図書室便りを発行（年4回の予定）している
- ・参観日の全体懇談や学級懇談での啓発

【課 題】

- ・学校と図書館がより連携しながら学校の図書室運営について、より児童生徒が読書に親しめる環境整備を図る必要がある。
- ・学校図書的情報をデータ化し、学校と町立図書館の所蔵している図書情報の共有化を図ったが、今後は、学校での運用状況や図書の貸出し状況を把握し、読書の推進を図る必要がある。

【方 策】

学校は子どもにとって勉強を学ぶ場であると同時に他人との集団生活の中で倫理観や他人への理解力を養う大事な人間形成の場であります。この時期に読書習慣を確立することが、読解力や表現力を身につけ、本を通して様々なことを学び自己判断力を高めることができます。

このため、児童生徒が読書に親しむ習慣づけを推進するため、読書指導の充実や学校図書室の図書資料の充実及び活用を進めていくことが必要です。

- ・児童生徒の読書習慣の定着化を図る。
- ・ボランティアや図書館と連携による読書活動の推進を図ります。
- ・学校図書室の図書資料の充実を図るため計画的に購入や更新を図り、児童生徒の利用促進を図ります。

【具体的な取り組み】

- ・朝読書や読み聞かせ活動等などの読書活動の推進（小中学校）
- ・学校間における図書貸出しなど図書資料の有効活用（小中学校）
- ・家庭における読書の奨励のための情報提供（小中学校）
- ・移動図書の利用促進（図書館、小中学校）
- ・教科や総合的な学習の時間、特別活動の時間等での学校図書館及び図書館の利用促進（小中学校）
- ・読書ボランティアの活用（図書館・ボランティア）
- ・図書資料の計画的な購入・更新による整備充実（小中学校）
- ・学校図書室の利用促進（小中学校）

2 子どもの読書活動を推進するための環境整備の充実

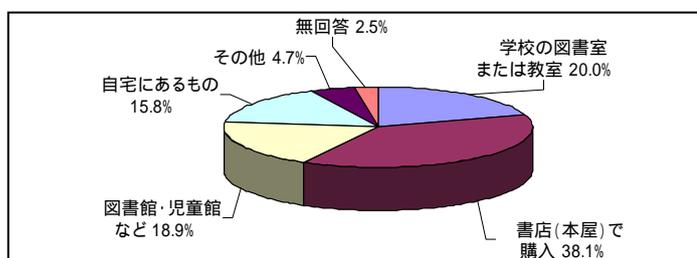
(1) 読書活動の環境整備について

【現 状】

- ・図書館では季節やテーマを設定し、展示している
- ・図書館と学校図書室の所蔵図書データの情報を共有し、移動図書や調べ物学習など参考図書の貸出しや情報提供を行っている。
- ・図書館における児童生徒の利用者は10,881人、貸出し冊数は20,493冊である。（H21）
- ・幼稚園、保育園（所）等のアンケートから、「本の貸出しをしたり、クラス内で少しでも時間がとれると絵本や紙芝居を読む機会を多くとっている。」「絵本コーナーを設けており自由に子どもたちが読んだり、見れるようにしている。」などがある。
- ・児童生徒のアンケート結果から、本を選ぶ場所として「書店（本屋）で購入」が約40%、「学校の図書室または教室及び図書館・児童館」がそれぞれ約20%となっている。

アンケート結果から（児童生徒の読書調査）

問6 . ひと月に1冊以上読む人（問3で ~ に 印をつけた人）にお聞きします。あなたは読みたい本をどこでえらびましたか。（1つだけえらんでください）



【課 題】

- ・現在、図書館の読み聞かせ室を活用した読書活動が行えていない。
- ・身近にある学校図書室や教室及び図書館等の活用を図る必要がある。
- ・幼稚園、保育園（所）等に対して必要に応じ図書資料の貸出しや情報提供が必要である。
- ・学校、幼稚園、保育園（所）等の関係機関と読書に関する情報交換が十分に行えていない。

【方 策】

子どもが身近に本に親しめるよう環境整備を行うことが大切である。本に関わる機会を増やすことで読書するきっかけにつながっていきます。

- ・子どもが身近に読書に親しめる環境つくる
- ・学校図書室及び図書館が子どもに利用しやすい環境をつくる
- ・関係機関と読書に関する情報交換を行い実態把握し、読書の環境整備を図る

【具体的な取り組み】

- ・図書館における児童資料の充実及び環境整備（図書館）
- ・図書館における読み聞かせ室の活用と読み聞かせ会の開催（図書館・ボランティア）
- ・学校図書室及び図書館において、利用しやすい配架に努める（図書館・小中学校）
- ・幼稚園、保育園（所）等に対して、必要に応じ図書資料の貸出しや情報提供を行う。（図書館）
- ・関係機関と読書に関する情報交換を行い、読書環境を整える。
（図書館・保健福祉課・子育てセンター・幼稚園・保育園（所）・ボランティア）

3 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

(1) 読書活動に関する理解と関心の普及について

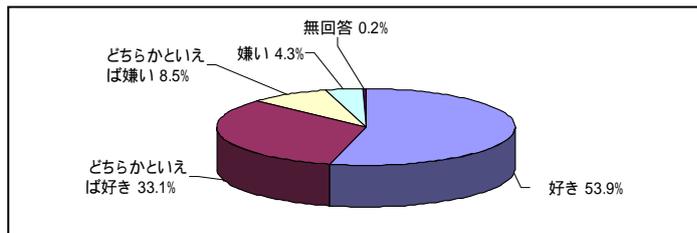
【現 状】

- ・秋の読書週間において、読書感想文、感想画コンクールを実施している。
- ・児童生徒のアンケート結果から、「好き・どちらかといえば好き」をあわせると 87%を占めており、読書が好きな児童生徒が多い。
- ・幼稚園、保育園（所）等の保護者のアンケート結果から、「創造力や感性を育てる」、「読解力を養う」など、98%の人が読書は効果があると回答している。

アンケート結果から（児童生徒及び幼稚園・保育園（所）等の保護者の読書調査）

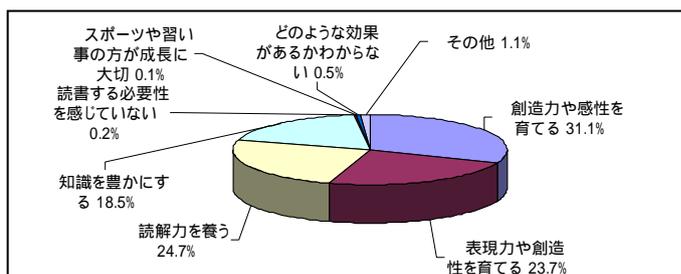
児童生徒の調査

問1 あなたは本を読むことが好きですか。（1つだけえらんでください）



幼稚園・保育園（所）等の保護者への調査

問7 子どもの成長にとって読書はどのような効果があると思いますか？（3つまで選んでください）



【課題】

- ・子どもの読書週間においては、ポスター掲示のみで、読書推進に関する事業を実施していない。
- ・図書館の利用や図書資料の情報提供が不十分である。
- ・あらゆる場面において、読書の意義を子どもや大人に伝えきれていない。

【方策】

子どもの読書活動推進のため、その意義や重要性について理解と関心を深めることが大切であり、大人も含めて読書活動に対する理解・関心を高められるよう、関係機関と連携・協力による普及啓発活動が必要である。

- ・各種読書週間における広報、啓発活動を行う。
- ・読書に関するあらゆる情報を提供する。
- ・あらゆる場面において、読書の意義を伝える。

【具体的な取り組み】

- ・「子どもの読書週間」や「秋の読書週間」における広報、啓発に努める。(図書館)
- ・図書館においてインターネットや図書館だよりなどを利用した広報、啓発活動に努める。(図書館)
- ・子どもの読書週間における読書推進のイベントを実施する(図書館・ボランティア)
- ・おすすめ図書などの情報を子どもや大人に対して情報提供する(図書館)
- ・読書感想文、感想画コンクールを実施する(図書館)
- ・あらゆる場面において、読書の素晴らしさや良さなどの意義を伝える(図書館・保健福祉課・子育てセンター・小中学校・幼稚園・保育園(所)・ボランティア)